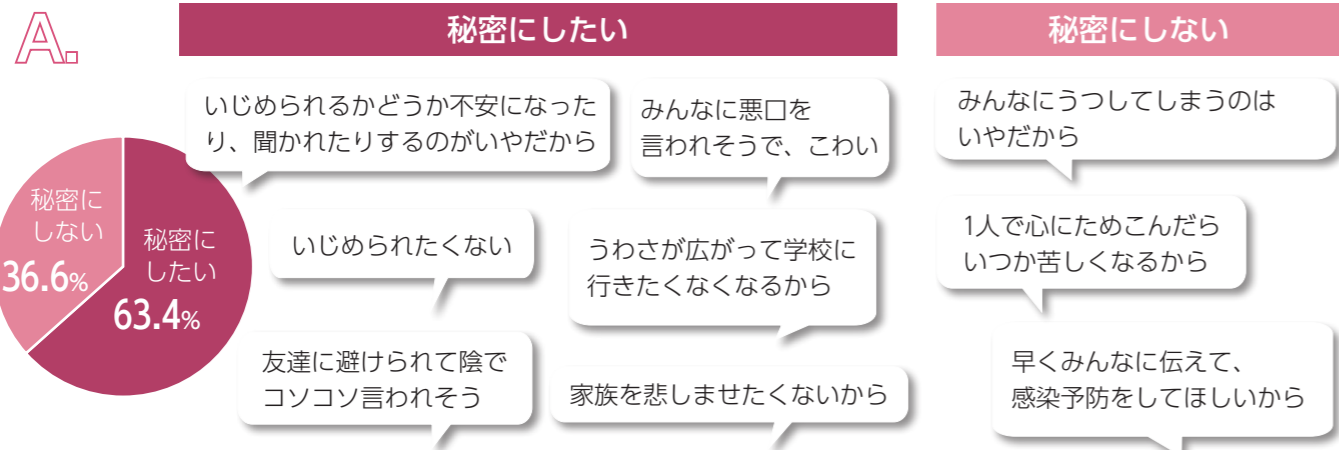
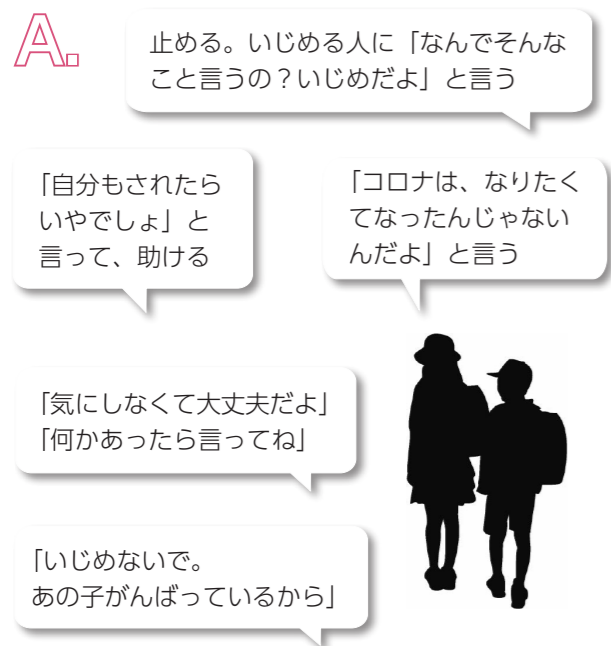


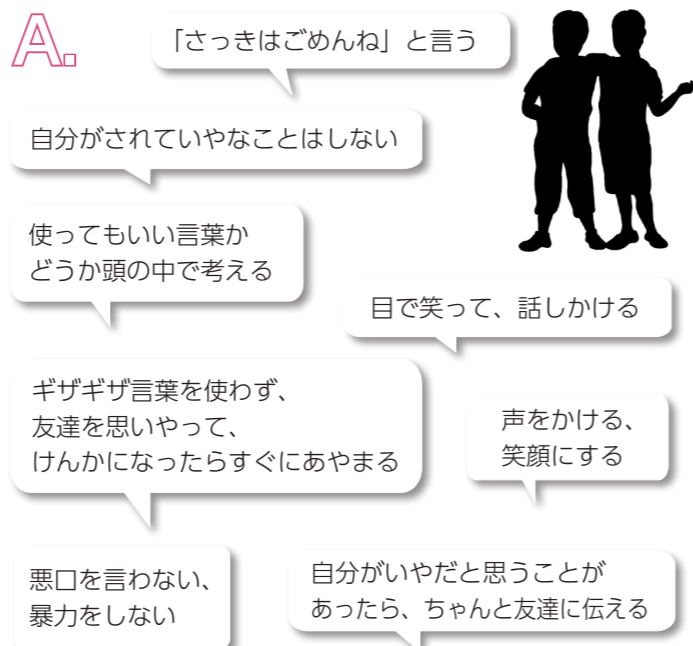
Q. 自分や家族が新型コロナに感染したら、秘密にしたいですか？



Q. もし新型コロナに感染した友達が いじめられていたら、どうしますか？



Q. みんなが仲良くするために、どんなことを心がけていますか？



新型コロナウイルスと人権

本当に怖いのは、ウイルスよりも差別やいじめ



新型コロナウイルスがもたらしたもの

差別の事例 引用：全国知事会調査、新聞報道

- ・感染した人が、仕事で着る制服をクリーニングに出したところ、店から「コロナの洗濯はできない」と連絡があった。
- ・医療従事者が、親族の葬儀への参列を断られた。
- ・感染者が立ち寄ったという不確かなうわさで、飲食店が閉店した。
- ・集団感染を公表した高校で、関係のない生徒の写真がインターネットに掲載され非難された。
- ・医療従事者の子どもが通園バスに乗るのを断られた。
- ・感染者個人の住所や職場が特定され、引っ越さなければならなかった。

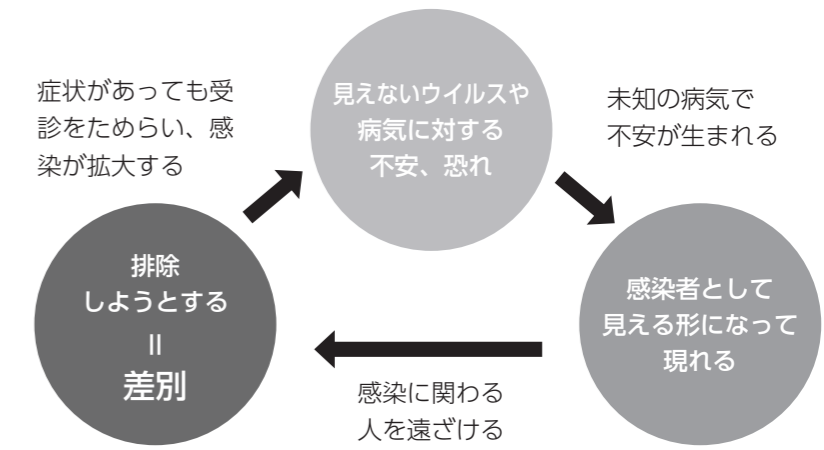
差別によって起こること

- ▶医療従事者
  - ・自分や家族が不当に差別されることを恐れ、看護師が退職する。
- ▶感染者
  - ・激しい攻撃にさらされることを恐れ、事実を隠す。感染経路を追跡できず、感染拡大する。
- ▶社会
  - ・正しいかどうかを確かめずに「よいこと」と思って流した情報で、デマが拡散し、社会不安が増幅する。
  - ・学校や社会活動の正常化を妨げ、日々の生活が停滞する。

STOP! コロナ差別

人を傷つける言動はやめましょう

感染した人は、体のつらい症状だけではなく、精神的にもショックを受けます。加えて、周りの人に誹謗中傷されることは、想像を絶するつらさです。また、差別を恐れて病状を隠せば、感染拡大にもつながります。病気の正しい理解と相手を思いやる心が感染拡大を防ぎ、よりよい社会へとつながります。



ぬくもりのある社会へ

廿日市人権擁護委員協議会 市里 尚弘 会長

マスコミの報道で、新型コロナウイルスの話題に接しないときはないでしょう。数字がひとり歩きする怖さもあります。防止の手立てをしても感染してしまう可能性があることを思えば、感染した人を責めることはできません。「うつさない、うつらない」を守り、自分の行動

を律し、人の痛みがわかる人間に成長していきたいですね。人権とは、幸せに生きる権利であり、お互いをかけがえのない存在だと意識することです。「お互いさま」の気持ちで、「早くよくなってね」といえる、ぬくもりのある社会を――。

私たちは、コロナ禍で学んだことをどのように生かし、行動すればよいでしょうか？ 編集委員にインタビュー

- なぜ人は差別をするのだろう…日々の報道で、差別のことを本気で考えるようになった。自分が同じ立場になったときを想像すれば、とても誹謗中傷などできないはず。
- まずは、やさしい言葉を知ること。そして、相手の立場を理解すること。
- 遠くの人ともつながり、会社でなくても仕事ができる時代になった。しかし、直接会うことには多くの意味がある。会話により互いを理解して信頼関係を築き、認め合うことで、人権意識が育まれていくと思う。
- 高齢者や1人暮らしの人にとって、つながりの場は大切。人とのつながりを実感できる地域になるよう、行動していきたい。
- 「相手の立場に立って考えよう」というのが、簡単ではない。自分に置き換え、自分事として対処できる思考力や体力を培っておくことが大切だと思う。
- コロナに限らず、さまざまな差別や偏見の根は一緒のように思う。どんな状況でも人を差別することは許されない。相手の気持ちを想像し、寄り添える世の中にしていきたい。
- 排除がなく、生きづらさを感じない・感じさせないコミュニティでありたい。